

集会案内

日曜日

礼拝 1:45pm-2:45pm

教会住所

c/o Grace Hills Church
24521 Moulton Pkwy
Aliso Viejo, CA 92637
中庭の小さいチャペル

地図



ホームページ

www.irvinenihongokyoikai.org

榑原宣行牧師

電話(714)827-6244

Eメール: nobu@occc.org

杉村宰牧師

電話 (714) 234-4778

Eメール: sugimura1950@gmail.com

【わたしたちの教会の歩み】

2005年9月18日、アーバイン日本語キリスト教会は、南オレンジ郡地域の日系人とその関係する方達の救いのために、東洋宣教会北米ホーリネス教団オレンジ郡キリスト教会の伝道所として礼拝を開始しました。杉村宰牧師をはじめ、榑原宣行牧師、加藤伸江姉、佐藤裕士兄と信徒達の協力で毎週礼拝をささげ、伝道と牧会の働きをしております。

【ミッション ステートメント】

アーバイン教会の使命は、罪の中にある人々を救うために十字架について死んで下さり、三日後に復活されたイエス・キリストの歴史的事実を、まだイエス・キリストを知らない日本語を理解出来る人々に、主の大宣教命令（マタイ28：18-20）に従って宣べ伝え、ホーリネスという愛の信仰を土台として信者達の信仰の成長をうながし、イエス・キリストとの祈り深い生活へと導き、整えられたクリスチャンとすることにあります。

◎石叫■

「パンクしたタイヤが変えた人生」②
結婚式が終わると、すぐにも運送会社に戻り、タイヤを積んでアメリカ人夫妻のもとに行った。すでに日は暮れて気温も下がり、彼らは車の中で毛布にくるまって待っていた。日々野青年がタイヤをつけ終わると、彼らはとても喜び、修理代の他に、車に載せていたものをいくつか贈り物として彼にくれた。

その頃、日々野青年には一つの願いがあった。彼は名古屋YMCAで英語の勉強をしていたので、アメリカ人の誰かと文通をして、もっと英語力をつけたいと考えていた。そこで彼らに誰か文通相手を紹介してもらえないか尋ねたところ、フランキーという名のご夫人が、「そうねえ、私の母が喜んでするでしょう」と言って、母親の名前とテネシー州チャタヌガの住所を紙に書いて渡してくれた。それから三週間後、日々野青年はアメリカ人夫妻が住んでいた、名古屋城に近いアメリカ軍士官居住区内の彼らの家のデイナーにも招かれた。

やがて、夫人のお母さんエドナとの文通が始まり、日々野先生は英文での文通に夢中になっていった。和英辞書を片手に、何日もかけて格闘しながら初めて英語の手紙を書いた。しばらくすると、文通相手からイエス・キリストとその福音について書いて来るようになったばかりか、キリスト教のパンフレットや本も送ってくるようになった。日々野青年はキリスト教自体には興味がなかったが、心を閉ざしていた訳ではなかった。関心はもっぱら英語にあった。

アメリカが日本を占領した当時、駐留軍の彼らは弱い立場にある日本人を虐待しなかったばかりか、親切だった。彼らは、日本の学校での体罰をなくすなど、日本社会に良いことをもたらしてくれた。戦時中の日本の学校では、ささいな規律違反でさえ体罰を受けるのが当たり前になっていたのである。そういうこともあり、日々野青年はキリスト教に少しづつ心を開くようになっていった。ところが、次第にエドナ夫人に書く話題に事欠くようになり、教会に行ったら何か書くことがあるかも知れないと思い、以前、翻訳の仕事で知り合った市村恵美子（後の日々野夫人）がクリスチャンであったことを思い出し、彼女に連絡することにした。すると、彼女は自分の教会に来るよう誘ってくれた。それは名古屋市内の金城教会だった。やがて、彼はその群れに溶け込んでいった。

Rev. Tsukasa Sugimura